



はじめに

北海道立農業大学校（以下、農大）は、北海道で農業を志す人のための学校です。農大は、北海道十勝地方東北部の本別町に位置し、北海道内のみならず全国各地から学生が集い学んでいます。学生たちは、二四〇haの広大なキャンパスに整備した校舎や農場、温室、牛舎、加工施設、農業機械等を存分に活用して、自ら課題設定した実習に日々汗を流し、農業経営者としての力を蓄えています。

一 農大の沿革と学科の概況

農大は、その前身となる「北海道立農業講習所」として昭和二十二年に設置されて以来、令和五年度までの七八年間で五、五四名もの卒業生を送り出しています。卒業生は、農業の即戦力の人材である地域の中核的な農業者として活躍するなど、農大は本道の担い手の育成の面で重要な役割を果たしています。

課程・部門	学 科	専攻・コース	定 員	修業年限	受 験 資 格
養成課程	畜 産 経 営 学 科	乳 牛 ・ 肉 牛	60 名	2 年	・高等学校若しくはこれに準 ずる学校若しくは中等教育学 校卒業（卒業見込みを含む） ・北海道内で就農が確実な者 若しくは北海道内で就農の意 思を有する者
	畑作園芸経営学科	畑 作 ・ 園 芸	各科おおよそ 30 名		
研修部門	稲作経営専攻コース	稲 作 経 営	10 名	2 年	
研究課程	農 業 経 営 研 究 科	畜 産 専 攻	10 名	2 年	・農大養成課程若しくは研修 部門、短期大学、大学等卒業 （卒業見込みを含む）
		畑 作 専 攻			

課程・部門	学 科	学 科 の 特 色
養成課程	畜産経営学科	農場では、約90頭の乳牛・肉牛を飼育し、飼料作物の栽培、家畜の飼養管理技術、衛生管理、繁殖技術や経営管理を学ぶ。
	畑作園芸経営学科	作物栽培技術、機械操作、生産管理について生産から販売までを体系立てて学ぶ。畑作部、露地野菜部、施設園芸部に分かれて農場運営を学習する。
研修部門	稲作経営専攻コース	深川市にある拓殖大学北海道短期大学（以下、拓大）に授業を委託し、農学ビジネス学科の学生として学ぶ。農大では、2年間で約40日の集中講義と体験学習、視察研修等を実施する。農大と拓大のダブルスクールを実現している。
研究課程	農業経営研究科	研究テーマに応じて先進農家や専門研究機関などでスキルを高める。専攻ゼミ制により自ら設定した課題の解決に取り組む。

農大はこれまでに、「北海道立農業大学校」への改称（昭和四十九年度）や養成課程の一年制から二年制への改組（昭和五十四年度）、稲作コースの設置（平成二年度）、農業経営研究科の新設（平成一一年度）、養成課程の専修学校化（平成一八年度、それに伴う養成課程卒業者に「専門士」の称号の付与（平成一九年度）、四年制大学への編入など様々な改革を行い、農大の魅力向上や教育内容の充実を図ってきて、今に至ります。

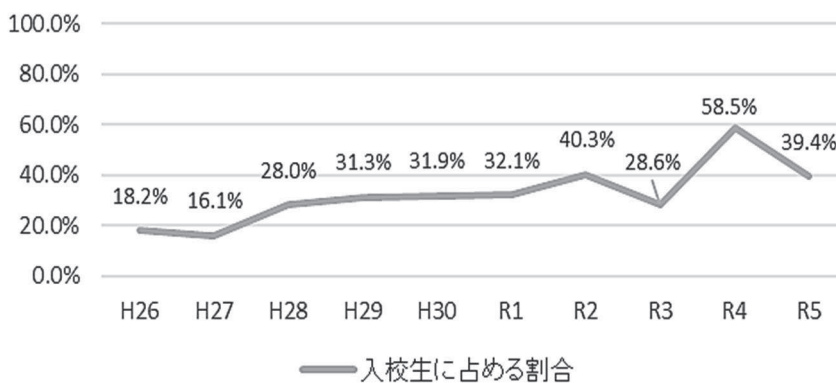
二 学生の状況

学生の出身は、平成二五年度頃までは、実家が農家という学生が八割以上を占めていましたが、現在では非農家の割合が五割程度まで占めるようになってきています。

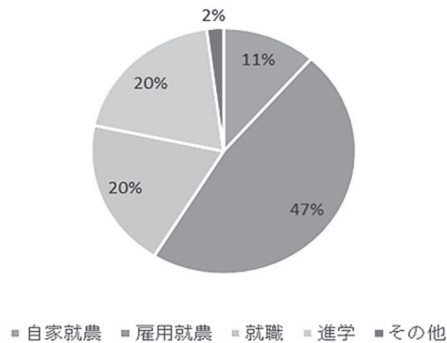
卒業生の進路については、農家出身者では自家就農が六四％と大半を占め

る一方、非農家出身者については、雇用就農が四七％、農業団体等への就職が二〇％、進学が二〇％となっています。

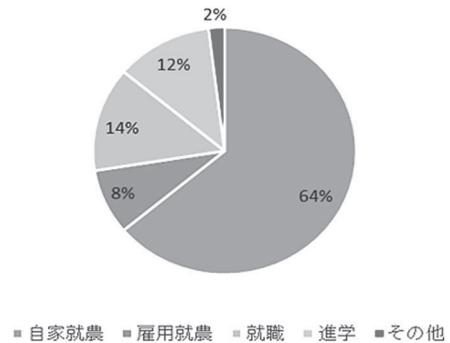
□ 入校生に占める非農家出身者の割合



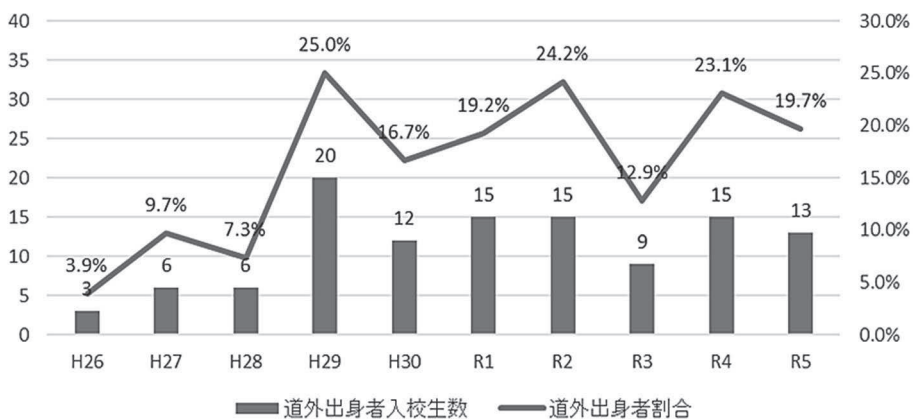
□ 非農家出身者の進路(H25～R4)



□ 農家出身者の進路(H25～R4)

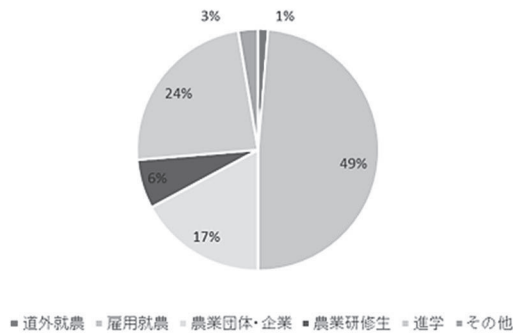


□ 道外出身者の入校生数と全体に占める割合の推移



近年、道外出身の学生が全体の二割程度を占めるなど増加傾向にあります。道外出

□ 道外出身学生の就職状況(H26～R4)



□ 近年の道外出身者の出身都道府県

青森県、宮城県、秋田県、埼玉県、茨城県、神奈川県、静岡県、長野県、愛知県、岐阜県、大阪府、京都府、兵庫県、山口県、福岡県、沖縄県

身者の主な進路は、道内での雇用就農が約半数を占めており、担い手として生産力の確保に貢献しているほか、農業関連団体等への就職や進学する者も多く見られ、道外出身者の九九%が道内に定着しています。

三 農大の特徴的な学習内容

農大は、農業の実践力を高めるため、三つの特徴ある学習内容を設定しています。

(一)プロジェクト学習

【実践的な学習でスキルアップ】

農大のカリキュラムは、教養科目や専門科目の授業、そして農場や牛舎での実習を通して、農業経営者に必要な実践する力を養います。二年目には、各自の課題に基づいたプロジェクト学習に取り組むことにより、責任感やリーダーシップなど経営者として必要とされる総合的な能力を養います。特に農場運営は、作業計画から管理、収穫、販売に至るすべてを学生が運営しており、主体性に基づき、実践力が身に付けられます。

(二)農家体験学習・先進地農業視察研修

【実際の現場で調査・研修】

養成課程の学生は、北海道内の先進的な農家で一ヶ月間の実習（一年生必修）及び先進地農業視察研修（二年生選択）を通じて、現場目線での知識・技術を修得します。農業経営研究科では、自ら設定した課題



の解決に向けた農業現場での視察や実習に多くの時間をかけ、幅広い視野から農業を捉えて高度で柔軟な経営感覚を養います。

このほかにも指導農業士や研究機関、農業設備・機械等の企業を視察訪問し、最新の情報と技術を学んでいます。

(三)多くの資格・免許を取得可能

（養成課程）

農大の農場を学生自らが運営管理する

ことから、普通自動車運転免許

のほか、トラクタ等を運転するため大型特殊運転免許の取得を入学時に求めています。

また、次のような実習に必要な資格については、在学中に取得することが可能となっており、これも農大のカリキュラムの大きな魅力となっています。

家畜人工授精師（牛）、牛
削蹄師（2級）、家畜商、ガ
ス溶接技能講習、アーク溶
接特別教育、フォークリフ
ト運転技能講習、車両系建
設機械（整地等）運転技能
講習、玉掛け技能講習、小
型移動式クレーン運転技
能講習

四 農大の魅力

(一)公立学校としての経済的負担

農大の設置者は北海道知事であること

から、全課程・研修部門の授業料は一六三、二〇〇円(年間)としているほか、入校料、教科書・教材・資格取得費や寮費(使用料・食費・光熱水費)等を含めて、年間諸経費は一〇〇万円程度(養成課程)であるため、学生の経済的負担は抑えられています。

また、稲作経営専攻コースにおいては、農大と拓大のダブルスクールとなっておりませんが、委託先の拓大授業料は北海道が負担していることから、学生は農大分のみの授業料負担となっています。

(二)幅広い進路

農大を受験するに当たって、「北海道での就農が確実な者・意思を有する」ことを求めています。北海道外から入校した学生を含めて、ほぼ全員が道内に定住しています。

農大卒業後は、自家就農、雇用就農、農業団体への就職など農業への道のほか、より学びを深めたい学生には、農業系四年制



大の存在は極めて重要であると考えています。

農大の役目は、これからも北海道で農業の生産を支える人材の育成に尽きますが、農家出身者、道内出身者に限らず、

大学への編入学や農大研究科など進学の道も開かれています。

おわりに

北海道は、我が国最大の食料供給地域であり、日本の食を支えています。その北海道にあって毎年、就農者を輩出している農

「北海道で農業を志す人」は、是非、農大に入校し、実践的な農業を学んではいかがでしょうか。

そのためには、農大としてはスマート農業教育などカリキュラムの充実や学生の学習・生活環境の向上に努めてまいります。